平成14年度 進路講演会

1年

映画評論家　佐藤忠男氏

2年

読売新聞編集委員　板橋旺爾氏

3年

壷渓塾講師　後藤和孝氏

【育友会だより第113号（平成14年12月24日発行）より】

進路講演会開かれる

一年　十月二十八日(月)

演題　自分らしい生き方の設計

講師　佐藤忠男　映画評論家

佐藤氏は、いじめられ気味で臆病な性格を持って少年期を過ごし、「自分は駄目な人間なのだ。」と思いつづけて大人になり二十三歳の時、心の中の鬱積したわだかまり、どうしようもない経験をシナリオに書き、その入選をきっかけにして、現在の日本映画学校の校長に至っている。

二十五歳のころ、無名の作家を発掘する名編集長になり、この頃から自分らしい生き方が見えてきたらしい。ライフワークとして、「アジアの解放」という目的のためにアジア映画祭を開催し映画を紹介している。

佐藤氏は、終戦後の子供の頃に感じた「トラウマ」を通じて、「社会や人のために役立つため」をモットーにして、「自分の中でマイナスをプラスに生かすよう努力し、自分をしっかり持って、自分の人生の手がかりを探すこと」を提言してくれた。

二年　九月二十六日(木)

演題　今、自分に挑戦
～自分を「見る」ことの大切さ

講師　板橋　旺爾(いたばしおうじ)　読売新聞西部本社編集委員

二年生のこの時期から、気持ちを受験モードに切り替えてゆくための心構えを五つの項目に分けて順次話してくださいました。

心に鏡を持って周りを意識しつつおとなになってゆくこと。

受験というグラウンドの中で戦うのは自分ひとりだということ。

日々あと一歩ふみ出すこと、あと十分頑張ることが目標に近づけるということ。

論理的思考を鍛えるため新聞をよく読むこと。

受験はいろんな意味でチャンスだということ。

そして最後に『天稟(てんぴん)』ということばを用いて、誰しもが持って生まれた才能に気づき、それを大切にして伸ばしていってほしいと締めくくられました。

三年　六月二十七日(木)

演題　君の夢を実現するために

講師　後藤和孝　遊学塾講師

講演は一、まず現実を知ろう。二、プラス思考でトライ、三、成績アップの勉強法、四、熱い、持続する夢が現実を変える。という四つの項目からなり、中でもご自身の学生時代はっきりした目標がなかった為に失敗した経験をユーモアを交えて語られ、また、ニュートン、アインシュタインという天才達が幼少時代必ずしも成績優秀ではなかったという興味深い内容もありました。

心の持ち方や考え方を変える事で、マイナスの逆境をプラスに転じることができ、自分の夢を現実のものとなし得るという熱き思いを語られ大変有意義な講演だったと思います。

受験生の皆さんも参考になったのではないでしょうか。

後藤和孝氏